

やっときゃよかった、やってよかった防災式

三木市から岡山県まで、兵庫県南西部を斜めに貫く巨大活断層「山崎断層」。868年の播磨国地震以来、マグニチュード7級の巨大地震は起きていない。だが、兵庫県は「最悪の場合」として次の想定をする。M8.0、死者約4千人、負傷者3万人、全半壊20万棟。震度7～6の被害は、姫路市など播磨全域から神戸、阪神間まで25市町に及ぶ。30年以内の発生確率は国の最新の長期評価で「最大0.01%」に下方修正されたが、油断こそが最大の敵であることを、阪神・淡路大震災、そして東日本大震災で私たちは思い知らされた。山崎断層大地震に迫る。(8/19 記事)

以上の文章から始まった神戸新聞『そのとき、何が山崎断層大地震』の連載特集。記事の中には、多くの想定が盛り込まれ、「想定」以外のリスクやハザード、一般に伝えられていない情報の存在等も盛り込まれた素晴らしい内容でした。

この特集から今回の防災式を考えたいと思います。

◆シリーズ「あなたならどうする？」パート9

少しの疑問を抱いた「山崎断層?」。山崎断層と言う名の断層は存在しないのでは?と調べてみた。『山崎断層帯は、岡山県東部から兵庫県南東部にかけて分布する活断層帯である』と記されている。正確に言えば、山崎断層帯は、那岐山断層帯(津山北方断層・那岐山断層)、山崎断層帯主部(北西部:大原断層・土万断層・安富断層・暮坂峠断層、南東部:琵琶甲断層・三木断層)、草谷断層の起震断層に区分されています。

私自身、新聞記事を信用している方ですが、少しだけこの特集記事の根拠となっているものを探してみました。



多分、平成25年7月19日発表、地震調査研究推進本部・地震調査委員会の「山崎断層帯の長期評価(一部改訂)」見直しからではないかと推測しました。それを読んでいく中で、更に気になることを発見しました。確かに、山崎断層帯南東部は、地震発生確率「0.03%～5%」だったのが「ほぼ0%～0.01%」になっています。しかし、山崎断層帯北西部では「0.06%～0.8%」から「0.09%～1%」に引き上げられています。また、1回のずれの量は、南東部が「2m程度」から「3m程度」に、北西部に於いては「約2m」から「2～5m程度」と大幅に上方修正されているのです。この事実を知っても、あなたは「下方修正された」と思いますか?勘違いしないでください。記事が間違っているということではありません。紙面には、書ききれないことが多いということも事実

なのです。記事には「油断こそが最大の敵である」とも記されています。そうなのです!今現在の油断が将来に於いても、今は大丈夫と注意を怠る「油断文化」が代々受け継がれてしまうのです。これは、阪神淡路大震災や東日本大震災でも当てはまってしまったのです。

では、油断しない文化を創る為にはどのようなことをすれば良いのか?一緒に考えてみましょう。

今年は全国的に、シェイクアウト訓練(一斉防災行動訓練)が各地で開催されたようです。シェイクアウト訓練は、2008年に防災関係者らの発案でスタートした米国最大の防災訓練です。地震災害発生時に重要で、かつシンプルな「安全行動の1-2-3」をとります。この行動は「Drop(姿勢を低く!) Cover(体・頭を守って!) Hold on(揺れが収まるまでじっとして!)」と呼ばれ、小さな子供から大人まで誰でもできる基本的な安全行動と知られています。

ここで大切なことは誰もができる行動だということです。思い出せば、私が小学生の頃の防災訓練といえば、先生が「はい、みなさん地震です。机の下に隠れて!」でしたよね。身の守り方は世界共通なのです。



- ①ドロップ:まず低く!
- ②カバー:頭を守り!
- ③ホールド・オン:動かない!

私たちグリーンシティ防災会は、シェイクアウト訓練と合わせて「あなたの家のシェルター(安全地帯)を探せ!」を提案しています。

あなたの家のシェルター(安全地帯)とは、地震が発生したとき、ここに逃げれば大丈夫!ここにいれば大丈夫!



道路標識「安全地帯」 「倒れてこない・落ちてこない・ケガしない」そんな自宅の安全地帯「シェルター」を普段から作っておくことを推奨します。この場所だけは、何も倒れてこないし、落下する物がない場所を確保しておくことです。もし、緊急地震速報が発報されたら「すぐにシェルターへ逃げこむ」。そんな習慣が、あなたとあなたの大切な人を守ることになります。家族全員が「シェルターに集合!」と覚えておけば、地震の瞬間、みんなが大きな声で「シェルター!」。普段から「シェルター!」の掛け声で防災訓練ができます。小さな子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまでが簡単にできる行動。また、シェルターまでの通路も日頃から片付けておく「片付け訓練」をしていれば、更に命を守る力がアップします。結果的に、揺れが襲って来なくても、笑顔で「よかったね」と言い合える、そんな文化を創り上げたいですね。

今回の防災式は「あなたの家のシェルターを探せ!」です。それがあなたとあなたの大切な人を守ることに繋がる「本当の防災」になるのです。あなたも、今この瞬間から、あなた自身のシェルター探しを始めましょう。